

あいのかぜ

VOL. 37

2014・春号

“あいのかぜ”は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人一人が男女共同参画に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。

編集 男女参画・ボランティア課

(〒930-8510 新桜町7-38)

☎443-2051 FAX443-2176

✉ danjyo-volun@city.toyama.lg.jp

特集 「自分らしく生きる」 小学生の男女平等意識とは？

市では、小学3～6年生向けに、男女平等意識を育む啓発リーフレット「自分らしく生きる」を作成し、授業などで活用しています。このリーフレットは、前回の改訂から5年が経過したことから、昨年8月から約半年をかけて、小学校教諭5人による編集委員会で内容の見直しが行われました。編集委員会委員長である、富山市立新庄小学校の岡崎教頭にお話を伺いました。

<学校教育の場で感じる男女平等意識とは？>

今の子どもたちは、「男のくせに」「女のくせに」といった男女差別的な意識が、昔に比べて薄いように思います。私たちが子どもの頃と違って、「男だから」「女だから」と言われて育っていないというのが大きな理由だと思います。

男の子でも赤い洋服が好きな子どもや、調理や手芸が得意な子どももいますし、女の子でも野球部やサッカー部で活躍している子どももいます。親が共働きで、休日には父親が料理を担当するという家庭が増え、そういう姿を見て育った子どもは、それがごく自然だと感じているのではないのでしょうか。

それでも、体力面などで男女の違いはありますし、小学3年生頃になると、からかったり、反目したりといった男女を意識した行動が、子どもの成長過程として見られます。



富山市立新庄小学校
岡崎教頭



啓発リーフレット「自分らしく生きる」

<改訂のポイントは？>

今回の改訂では、子どもたちの男女平等意識が以前よりも進んできていることを踏まえ、イラストやストーリー、自己チェックリストなどを変更しました。

3年生は遊びを中心に男女仲良くする、4年生は自分の個性を伸ばすという観点で見直しました。また、5年生は夢や希望を持って将来の仕事について考えてほしい、6年生は進学を控え、自分を見つめ直し、自分らしさについて考えてほしいと願い、見直しや変更を行いました。

特に、子どもたちが「男だから…」「女だから…」とマイナスイメージで捉えるのではなく、男であっても女であっても「…が得意」「…が上手」などとプラスイメージで捉えられるように工夫しました。

<子どもたちへ願うことは？>

学校は、集団生活の中で男女の良さを認めつつ、協力することを学ぶ場でもあります。また家庭は、家族の愛情で、その人の人格、自分らしさの基礎をつくる場だと考えています。

社会で活躍する女性や、家事・育児に協力的な男性が増えているなか、学校や家庭で日々育まれる子どもたちの意識も、時代とともに変わってきていると思います。「自分らしく生きる」、そしてそれをお互いに認め合って生きる、固定観念などに縛られることなく、子どもたちが個性や能力を発揮できるように願っています。

男女平等意識を育む啓発リーフレット(改訂版)の編集委員会委員

おがさきよしこ
岡崎佳子教頭(新庄小学校)

さとうなおこ
佐藤尚子教諭(鶴坂小学校)

しおかりゆき
塩刈有紀教諭(大沢野小学校)

だいもんしょうじ
大門秀司教諭(芝園小学校)

たにいたかゆき
谷井貴征教諭(豊田小学校)

レポート REPORT 男女共同参画とやま市民フェスティバル 2013

平成25年11月10日(日)に、市民プラザで「男女共同参画とやま市民フェスティバル2013」が開催されました。
あいのかぜ編集委員が報告します。

講演会

漫画家の倉田真由美さんが、「くらたま流 婚活～その人と結婚するために～」と題して講演されました。

「人生は、家族ができたり、子どもができたりするごとに、階段状にランクアップしていくというものではない。どんな状況でも、幸せも不幸せもある。」
「現在、自分自身は結婚していて良かったと思っているが、だからと言って、必ず結婚しないといけないとは思わない。人生にはいろいろな生き方があるし、どんな生き方がいいかなんて、誰にもわからない。ただ、結婚したいと思っている人にはぜひ結婚してほしい。」「結婚相手は最終的に、人としての相性が合う人がいい。怒りや不満というマイナスの感情は、たまっていくもので、それがあふれると離婚の原因になることもある。できれば、そういうマイナスの感情が芽生えない相手で、他の人なら許せないことでも、この人なら受け入れられるという関係性が大事。」「夫婦に限らず、親子、友達関係がうまくいくには、相手に必要以上に期待しない、相手を正しく認識するということが大切。」などのお話がありました。



倉田さんご自身の経験や漫画執筆のための取材から得られた興味深いエピソード満載で、飾り気のない人柄と鋭い人間観察眼に魅了された講演会でした。

フォト&メッセージギャラリー

一般募集した、大切な人と一緒に撮った思い出の写真「ナイスカップルフォトギャラリー」や、日頃なかなか言えない家族への感謝のメッセージなどを伝える「あなたに、言葉の花束を」をステージ上のスクリーンで紹介しました。BGMに乗せた心温まるスライドショーに、ご覧になった方から「涙が出ました」「家族、夫婦のあたたかさが伝わりました」など、感動の声が寄せられました。

ミニライブ

富山市在住の産婦人科医でシンガーソングライターノリコの norico さんによる、「norico トーク & ライブ」と題したミニライブが開催されました。

ライブでは、女性の思いや家族のぬくもりなどをテーマにしたオリジナル曲「ぬくもり」「ありがとう」「笑顔になれるこの街に生まれて」など、5曲の演奏がありました。音楽をはじめたきっかけや曲への想いなどのお話、息子さんのバイオリンや娘さんの振り付けの共演もあり、norico さんの澄んだ歌声に、癒やしと家族の温かさを感じるひとときでした。



男女共同参画推進センターだより

男女共同参画推進センター：CiC 3階(新富町一丁目)

各種相談を行っています

- ◎ DV(夫・パートナーからの暴力)相談(電話・来所)
DV 相談専用電話 ☎433-2210
※来所相談については、電話予約をお願いします。
※ DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者や恋人などの親密な関係にある人からの暴力のことを言います。
- ◎弁護士による夫婦・男女に関する法律相談
- ◎女性臨床心理士による夫婦・男女に関する悩み相談
- ◆相談日程は、毎月広報とやま20日号で案内しています。

男女共同参画講座を開催しています

男女共同参画に関する話題などをテーマに、CiC ビルをはじめ、さまざまな会場で講座を開催しています。

2月15日には、呉羽会館で、「笑いヨガ～いっしょに笑って健康づくり～」をテーマに開催し、114人の参加者が講師とともに、元気いっぱい笑いヨガ体操を行いました。

平成26年度もさまざまな講座を開催していきます。日程などの詳細については、広報とやまに随時掲載します。



男女共同参画社会づくり 作文コンクール

男女共同参画社会の実現に向けた意識を高めるため、市内の中学生を対象に男女共同参画に関する作文を募集したところ、235点の応募がありました。応募された皆さん、ありがとうございました。入賞された方と、最優秀作品を紹介します。

【最優秀賞】 江畑美穂さん(芝園中学校 2年)

【優秀賞】 安間萌優さん(芝園中学校 3年)
入江紗羅さん(月岡中学校 3年)
玉生愛貴さん(八尾中学校 1年)
廣田愛さん(南部中学校 2年)

【佳作】 岡地彩希さん(芝園中学校 1年)
小嶋沙羅々さん(和合中学校 2年)
寺西真輝さん(芝園中学校 3年)
貫場靖晶さん(芝園中学校 2年)
野崎千晶さん(和合中学校 3年)

林可奈さん(大沢野中学校 1年)
松原剛さん(新庄中学校 1年)
水木莉緒さん(和合中学校 3年)
安田匠社さん(山室中学校 1年)
山本あいさん(山室中学校 3年)

最優秀作品

「女性が活躍する社会づくりのために」 芝園中学校 2年 江畑 美穂

私の両親は、二年前から共働きをしています。以前は、父が会社へ働きに出かけ、母は家で家事や育児をしていましたが、私や兄が成長し、自分のことを自分でできるようになったため、母も会社で働き始めるようになりました。母が働き始めた頃は、私が学校から帰っても家に誰もいないことから、寂しさを感じることもありました。しかし、仕事と家事を両立して頑張っている母の姿を見るうちに、母をもっと応援しようと思い、家事も進んで手伝うようになりました。

一方で、世の中には働きたくても働けない女性は少なくないと思います。小さな子供の世話が必要な人や、親の介護が必要な人など様々な問題を抱えている人がいます。しかし、この問題は子供を長時間預けることができる施設や、介護施設などを増やすことで少しずつ解決できるのではないかと思います。

また、女性の能力が発揮され、活躍できる仕事を増やすことも必要です。実際に色々な分野で女性の社会進出が進んでいます。先日、「十四歳の挑戦」の職場体験でお世話になった薬局でも、女性の方が薬剤師という資格を生かして、年齢に関係なく生き生きと働いておられる姿がとても印象的でした。

このように、性別や年齢に関係なく自分の持っている能力や個性を十分に発揮し、互いに支え合う社会を築くことが大切だと思います。そのために、社会全体が女性の立場をさらに尊重し、女性の意見にも積極的に耳を傾けることが必要です。また、私たち女性は、将来社会に出た時に果たすべき役割や、男性も女性に期待することについて今からしっかり考えておく必要があると思います。このような社会全体の取り組みや、私たち一人一人の意識によって、明るく活気ある社会が実現するのではないかと思います。

編集後記

今の小学生の男女平等意識が、私が子どもの頃とはやはり違うと感じました。この先もまた変わっていくのかもしれませんが、子どもたちには自分の個性や能力を十分に発揮できる未来を築いてほしいと願っています。
(Y. K)

今回の編集をするにあたって、子どもたちの明るい未来のために尽力する人々がたくさんいることを知りました。「男だから」「女だから」ではなく、「その人らしさ」を認め合える社会になっていくといいですね。
(H. H)

今の子どもたちは、小・中学生のうちから男女共同参画社会の実現に向けて考える機会が与えられ、男女平等であることの必要性を実感しているように思います。男女の良さを認めつつ、互いに支え合いながら自分の良さを生かしてもらいたいです。
(M. M)